



梅雨の真っ最中です。じめじめした日が続いていますが、お変わりありませんか。

台風4号の進路を気にしつつ、この原稿を書いています。天気予報では日本列島を横断するようなコースだと言っていますが、和歌山に上陸したとしても被害がないようにと祈るばかりです。

市会議員選挙後、初めての定例市議会が行われ、7月1日に終了しました。今回は大滝ダム負担金問題と鳥獣害対策について取り上げた議会報告を中心にお届けします。

7月29日は 参議院選挙の投票日

参議院選挙は比例代表選挙と選挙区選挙の二つの投票があります。国の政治に大きな影響を与える選挙であると同時に、今の政治の流れを変える絶好のチャンスです。

住民税増税の問題、消えた年金の問題、憲法を変えようという動き、政治とカネの問題、などなど…国民不在の逆立ち政治に厳しい審判を下しましょう。

投票に行きましょう!

森下さちこの議会報告

《大滝ダム負担金問題》 見直して負担増?

3年前の2004年、「これが最後」という意見をつけ270億円の新たな事業費のうち、市の負担分について認めたとはいう経緯がありながら、今回さらなる見直しに伴う160億円の工事費が国土交通省から提示されました。大滝ダムの見直しはこれで6回目ということになります。

くらしへの影響は?

追加負担は新たな地滑りが起こる恐れのある箇所への対策工事だといえ、地盤の危険性は建設当初から指摘されていたことを考えれば、この責任は国にあることは明白です。
もし、今回も追加負担を認めれば、近い将来、水道料金にはね返ることも危惧されます。

こんにちは!

ふじい けんたろう

藤井健太郎です



6月定例会が知事提案の議案を原案どおり可決して閉会しました。今議会では前知事の官製談合・汚職事件の解明と再発防止、大滝ダムの計画変更についてなどが大きな問題となりました。

私たちは新たな議会で特別委員会を設けて、談合・知事の裏交際費問題、再発防止策について議論することを求めましたが、他会派の合意が得られず、全員協議会を開いて知事から説明を求めることになりました。

知事は、談合問題については、自分は前知事のような事件を起こさない自信がある。県民への説明は裁判の判決を見て対処していくと述べ、あらためて自ら解明に乗り出す気はないという説明に終始しました。大滝ダムの追加負担について、知事は「仕方がない」と同意しました。議会で国の責任を問い、自治体への財政負担おしつけに反対したのは共産党議員団だけでした。

優柔不断な市長の態度

市長は3年前、そして今年の2月議会でも、「国に対し強くこれ以上の見直しはないようにされたい」と要望したので新たな負担はない」と明言しました。したがって、国の要請には毅然と「払えませぬ」と言うべきだと求めました。

市長は「前回が最後と言いながら国が再度の見直しを行い追加負担を求めていることはきわめて残念だ」との見解を示しましたが、「払えませぬ」と明言はせず、今後の国との協議の内容を見たらうで、市民にとって最善の策を講じると答えるにとどまりました。

意見書を全会一致で採択

議会は前回の見直しの際にも「大滝ダムの追加事業費については国が責任を持つべきであり関係自治体に負担させないように」との意見書を決議しましたが、今回も最終日の11日、再度、国の責任を強く指摘し、あらためて「関係自治体への負担を求めないよう」との意見書を全会一致で可決しました。



《鳥獣害対策》

これまでも、タイワン猿やイノシシ、アライグマなど農地や作物を荒らす鳥獣害対策の充実を一般質問で取り上げてきました。

身近な地域で被害が！

先日、山東地域だけでなく隣接する岡崎地区にもかなりの被害が出ていることを当該地区の農家の方からお聞きしました。岡崎地区は紀伊風土記の丘につながる山の南側に位置し、鳥獣保護区域の南側に位置し、鳥獣保護区域に指定されています。農地は多いものの住宅地や公道にも面しており



「旅田卓宗議員の辞職を勧告する決議」

に賛成しました

和歌山市長在職中に着手した「不老館事業」と「石泉閣事業」をめぐり収賄と背任の罪に問われていた旅田議員の控訴審判決が2007年7月2日、大阪高等裁判所で行われ控訴棄却の判決が下りました。

かつ、失墜させるものであり、それを真摯に受け止めるならば自ら進退を明確にする責務があるとしています。

決議は有罪判決が1審に続き2審でも下されたことで市民の市政に対する信頼と信用をゆるがせ、

また、失われた市民の市政に対する全幅の信頼を一日も早く回復することが議会の責務であることも明記しました。この決議案は最終日、賛成多数で可決されました。

おっきく なあれ

ちん記
んく日
さ哉長
下元成
森

7月21日は、中学校最後の陸上競技大会です。元哉は入学後すぐ、陸上部に籍を置き、放課後は、とにかく「部活」の毎日でした。時には遊びたいからと練習をサボったりすることもありました。特に合唱団と両立させるといふ点では母の私とよくぶつかりました。元哉はそんな葛藤の中でこの三年間、どちらも投げ出さず、よくがんばったと思います。今大会では四種競技に出るのですが、これまでは「絶対、来るな」と言っていたのに、「中学最後だから見に来い」と初めて観戦のお許し(?)が出ました。最近、「一瞬の風になれ」という陸上競技に熱中する高校生男子を描いた小説を読んだのですが、私はずつと陸上競技は個人競技だと思っていました。しかし、リレーなどチームワークが必要なものもあり、小説には手に汗を握る。中学や高校の部活ならではの熱い場面がいくつも出てきます。21日は自分が走っているかのような高揚感を追体験させてもらえそうです。元哉？ありったけの思いを込めて、「一瞬の風になれ」。